

「住民さんとの懇談会」加計会場

令和6年7月27日（土）
午後1時30分～3時15分
場所 太田川交流館かけはし

○河野茂議会事務局長

それでは皆さんこんにちは。ただいまから懇談会を開催させていただきます。本日はお忙しい中懇談会にお越し頂きまして、誠にありがとうございます。私は安芸太田町議会事務局の河野と申します。どうぞよろしくお願ひします。本日の懇談会の開催に先立ちまして、御来場の皆様にお願ひがあります。そのお願ひというのはですね議会だより町のホームページに本日の模様をですね、撮影の方をさせていただくというふうに、御了承頂けたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。それではここからの進行は議会改革調査特別委員会、小島委員長と交代したいと思います。

○小島俊二委員長

はい、こんにちは。議会改革調査特別委員会の委員長の小島と申します。本日は大変暑い中、おいで頂きましてありがとうございます。今日忌憚のない御意見をお伺ひして、今後の報酬とか定数の決定の参考にさせていただきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。開会に当たりまして、中本正廣議長のほうから御挨拶を申し上げます。

○中本正廣議長

皆さんこんにちは。議長しております中本でございます。暑い中、本当に今までにないような暑さが続いておりますけど、こういった中にお集まり頂きまして本当にありがとうございます。今回のテーマとしましては議会改革の中での報酬とそれから定数の関係を皆さん方にお聞きしたいということでお集まり頂いたことでございます。今全国的にこの問題が問題的になっておりまして、全国の町村議長会のほうでも取上げて審議しているところでございます。また、この前総務省のほうに陳情をしたところでございます。全国で、926町村がございまして、その中でですね、今全体の4分の1を超える254町村が大体無投票になっている状態です。その中で、31町村が定数割れということになっております。これが令和9年、今からまだ2年先ぐらいのままで4年間では全体の3分の1を超える、316町村が無投票でなる可能性がもう出てきてるんじゃないかというような状態になってきております。そういった中で、議員の報酬という問題も一つ出てきてるわけですけど、大体30年近く、安芸太田町が合併して20年ですけど、それ以来全然まだ変わってないというのが現実でございます。全国で見ますと、全国平均で見ると、今の状態ですと21万ぐらいの状態なんですけど、どこも今もう給料の見直しと、報酬の見直しということで、上げざるを得ないということをお考えおとこでございます。県議会議員のほうがですね、大体県知事の大体68%ぐらいの金額というようになっております。それから、市議会議員が市長の47%の金額というように報酬を出しております。町村としましても、どのようにするかというのがあるんですけど、以前は町村長の大体30%というのが目安でございましたけど、一応全国でこの前、各町村に割当てた金額、割当てと申しますのが47%にしようじゃないかというのが目標を立てております。安芸太田で考えますと47%いいまして大体33万ぐらいになります。そのとき私も発言したんですけど、これは実現不可能な金額であろうということです。それに近づくような形のものを目標としてやろうというのを、中央、総務省のほうにも、陳情出してあります。これは交付税の中で見てくれというような意味のことでございます。大体今安芸太田町の人口的推計から見ますと、議員定数を減すというのがありますけど、大体総務省の換算では、今18名が安芸太田町の人口で想定しますと18名が、妥当だというのが

一応の目安にはなっておりますけど、これが今12名となっております。これがまだ今の状態ですと、もうちょっと下げたほうがいい、このままのほうがいいのかといういろいろな意見がありますので、皆さん方の御意見を拝聴して、議会の中で、また、しっかり協議していきたいというように思っております。こういった状態になっておりますので、皆さん方の御意見を忌憚ない意見をどんどん出していただいて、これをまた議会の中で、協議し、決めるといいますか、報酬委員会もあろうと思います。いろいろと協議していきたいというふうに思っておりますので、今日はどうかよろしくお願ひいたします。

○小島俊二委員長

はい、ありがとうございます。続きまして本日の次第の裏に議員の自己紹介といいますか、載せておりますので、この順番、上から順番によりまして、議員の自己紹介を行いたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

○佐々木美知夫副議長

はい暑いさなか御苦労さまでございます。私、筒賀の佐々木美知夫でございます。議会のほうでは副議長、また議会改革のほうでも副委員長を仰せつかっております。よろしくお願ひします。

○末田健治議員

はい、津浪の末田健治と申します。よろしくお願ひいたします。

○津田宏議員

はい戸河内上本郷の津田でございます。よろしくお願ひします。

○田島清議員

殿賀高下の田島清です。よろしくお願ひいたします。

○佐々木道則議員

はい。失礼します。同じく殿賀の佐々木道則でございます。よろしくお願ひいたします。

○角田伸一議員

はい、筒賀に住んでおります角田伸一でございます。よろしくお願ひします。

○大江厚子議員

はい、戸河内土居におります大江厚子と申します。よろしくお願ひいたします。

○斉藤マユミ議員

はい、戸河内松原の斉藤マユミと申します。今日はよろしくお願ひいたします。

○大江昭典議員

はい、筒賀松原にあります大江昭典です。よろしくお願ひします。

○影井伊久美議員

上殿に住んでおります影井伊久美と申します。よろしくお願ひいたします。

○小島俊二議員

はい最後に本委員会の委員長しております小島と申します。どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは意見交換に移る前に本日お配りしております資料について私のほうから簡単に説明させていただきまして、それから質疑応答に入りたいと思ひますのでよろしくお願ひします。説明は一応議員定数と議員報酬について今までの経緯及び概要について、掲載しておりますので、議論の参考にしていただければと思ひます。まず1ページが議員定数についてでございます。議員定数につきましてはここにありますように平成11年には地方自治法で、定数の上限が定められておりました。人口5,000人以上1万人未満の町村では18名の議員定数を設けるということでございます。ですから、したがいまして、平成16年の合併時にはこの上限を取りまして18人で安芸太田町は、議員定数をスタートさせたという状況になっておるところでございます。その後、平成23年に自治法の改正が行われまして、これで先ほど言ひました18名の上

限が撤廃されまして、議員定数については、その町村議会の条例で決められるよと、極端に言えば18人でも12人でも10人でもいいよと、条例で決めればその町村が独自に決められるという状況になりました。次に2番目安芸太田町の議員定数の推移でございますが、平成16年10月に合併しました。このときは半年ほど合併特例で34人の議員が在籍しておった状況でございます。平成17年の4月から、先ほど申しました18人の上限がありますので、18人でスタートをしまして、それ1期4年間、この18人の定数で議論をしてきたということでございます。その後、平成21年4月からは、2名減を、議会で決めまして、16人で4年間を過ごした状況でございます。そのまま議会改革の中で、議員定数を、人口減ってるんだから、議員定数も減すべきだろうという議論があったんだろうと思いますがそういった中で、平成25年4月からは、現在の12人に、定数が変更になって、現在に至ると。平成25年4月1日から4月からは、3期、現在の任期を含めまして3期12年間、この12人の定数で推移しております。そういった中で人口も減ってきたり状況も変わってきて、今安芸太田町議会の中でも、議員定数等の見直しについて議論を活発化させておるところでございます。続きまして次のページが、今のメンバーではないんですが、議員定数について議員のアンケートを行いまして、12人のときですが、増やすべきが1人、12人は維持すべきだろうが5人で、減らすべきは6人だろうと、その当時のアンケートではそういった結果になっておるところでございます。4番目に参考資料といたしまして広島県内に九つの町がございます。そのうち、安芸太田町から大崎上島町までが平成の大合併で合併した5町村でございます。5町村につきましては、12から10名という議員定数で現在運営をしております。下の安芸郡4町につきましては、県内でも狭くて人口の多い町でございますので、人口も人口密度も多いということでそういった、そこにありますような定数で運営をされておるところでございます。5番目としまして議員定数の算出方法につきましては、主に常任委員会方式、人口比例方式、類似町村との比較方式というこの三つの方式をよく採用するんですが、常任委員会で委員会ございます。これを運営するためには何人の議員が必要かということから、議員定数を算出しとる市町がございます。それと人口比例方式、要は議員1人当たり何人の住民を抱えているのかということを参考に決めている町、それと類似町村いうて全国で人口と産業構造で同じような町を並べて、安芸太田町の場合全国77町村があるんですが77人の平均を見て、これぐらいの定数が適当だろうということは決め方をしておるところであります。類似団体の比較方式にしますと、安芸太田町の類似団体が77ございまして、平均11.4人と、議員数を持ってるのが今の現状でございます。議員定数については大体以上のような状況は今までの流れでございます。続きまして3ページが議員報酬についてでございます。安芸太田町の議員報酬は、合併以来、平成16年10月1日の合併以来改正がなく、20年間同額の数字を維持しておるところでございます。合併時に加計筒賀戸河内の3町村の議会議員の報酬を比較しまして、当時3町村とも財政難でございましたので、調べたところ1番低かった筒賀村の議員報酬を参考に今の20万という方針を決めたというような状況になっております。続きまして次が、広島県内の先ほど申しました九つの町の議員報酬の状況でございまして、安芸太田町は、平成16年10月1日以降改正が全く行われてないという状況でございますが、他の8つの町におきましては、何回か改正を行っている状況でございます。そこで参考になるんですが世羅町は24万1,000円という金額でございますが、先般議会内部で議会改革の委員会をしまして、世羅町はちょっとよそとは違いまして、職員の給料に準じようと新聞に載ったと思うんですが、職員の主査級に議員報酬を充てて、課長級に議長の報酬を充てると、というような状況の方針を出したところでございます。今後報酬等審議会の審議を経て、決定されるというふう聞いておるところでございますので、また推移を見守ってまいりたいと思います。大崎上島町におきましても、今回改正をする予定でございますので、広島県内は、議員報酬については引上げていこうという流れでございます。全国の類似町村でいうと、安芸太田町の属する77団体でいうと、21万6,000円という平均でございまして、こ

れが報酬等審議会では昨年答申された内容で、報酬等審議会では安芸太田町の場合に類似団体の平均をとったと、算出したという状況でございます。二、三日前に、中国新聞に島根県の邑南町ですかね、報酬と定数について記事が載っておりました。邑南町なんかは報酬を上げるべきで12という定数は、見直しをせん方針だということですが町民の中にはやっぱり人口減ってきたんで、定数については見直しをする必要があるんじゃないかというような意見が出ておったというふうな記事を見ました。この議員報酬を決めるのに、一つの参考となってるのが、先ほど議長が申しましたように、町長首長の報酬を参考に、議員が1年間何日の活動をしているかというところを割り算をして出す方法を採用してる町が多くなっております。令和5年で言いますと、4ページにありますように安芸太田町の場合、本会議委員会等々で74日議員が活動してると。法定外の会議、住民とのこういった会話とかいうのは3日ほど、コロナもございましたんでこれ令和5年は余り多くないという状況です。それと、本会議等で議員活動としての後援会だより配ったりというようなところが約40日あるであろうという積算をしております、町長の勤務日数が年間365日のうち305日土日を含めて活動する日はあります305日活動してるだろうと。いうところから算出しますと、安芸太田町の一般議員の報酬は27万1,000円余りが適当ではないかというような試算を出しておるところでございますがまた議論してまいりたいと思うところでございます。その下の欄は先ほど申しました世羅町が一般職の給料表に準じて給料を決める方式でございます。全国前後の一般職の給料法に準じて報酬を決めるというのはあんまり例を見ないですが、余りこれは議員活動と一般職の勤務日数が違いますんで、余り採用してる町は全国的にはないというような状況でございます。参考までに定数及び報酬について、状況を説明してまいりましたので、今後の議論の参考にさせていただければと思います。ここから意見交換に移りたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。どなたか意見がございましたら挙手の上、忌憚のない御意見を頂きたいと思ひます。事務局がマイクを持ってまいりますので、挙手の上、よろしくお願ひします。

●住民さん

すみません、質問。上筒賀の一ノ瀬と申します。お世話になります。一つですね基本的になんかちょっと勉強不足で申し訳ないんですが、ここの報酬というのは、基本的な給与のことですよね。議員活動等においてですね、これになんか活動費みたいなのが、出とるんですか、今現状で。

○小島俊二委員長

はいそれだけ先にお答えします。県会議員とか国会議員結構大きな活動の活動費を持っておりますが安芸太田町の場合、年間12万円の政務活動費というのが申請により支給されるという状況になっております。今12人おる議員の中で半々ぐらいですかね、支給してもらってる議員と支給してない議員と半数程度の状況でございます。以上でございます。県会議員も国会も恐らくいろんな名称で呼ばれておまして、安芸太田町でそれに準じとるのが、先ほど言った政務活動費というのを年間12万円ほど認めておるという状況でございます。申請により支給されるものでございます。国会議員であれば月に50万か100万であるとか、大きな金額出てるとあります。非常にこれが不透明な使い方をされとるので今、政治資金のことで問題になっておるといふ状況でございます。

○中本正廣議長

県会議員の場合は30万ですかね、大体月で。安芸太田町の場合は大体月に1万ですよね。だいたいね。だからその活動する内容的なもので使えるものであれば、いいですよという申請する、そのときに、それがこの分駄目ですって言ったら駄目になりますので。

○小島俊二委員長

安芸太田町の場合報酬以外に月に1万、年間12万円の政務活動費だけでございます。

○中本正廣議長

だからもらってる人ももらってない人がおります。私はもらっていませんけど、はい。

●住民さん

すいません。賞与があるんじゃないん？年2回。年2回賞与があるんじゃないです？

○小島俊二委員長

はい。期末手当というのが、これ全国どの町村でもございますが安芸太田町の場合もございます。

●住民さん

いくらくらい？

○小島俊二委員長

年間3.05月でございますかね。

●住民さん

3か月ももらったら上等じゃないですか。民間の会社からしたら。

○小島俊二委員長

そういう見方をされる方もいらっしゃいますし、議員専属で活動される方については必要な経費だろうというふうな見方もございます。これはいろんな議論でございます。以前は3期以上を務めた議員については議員年金というのが支給されておりますが、平成何年かの法改正によって議員が年金をもらうのは二重取りになったりするのではないかと、年金の、いう議論がありまして現在は廃止されております。以前の議員さんは年金もらってる議員さんもいらっしゃいますが、それ法改正後の議員さんについては、3期も4期もあります、年金は全くございません。

○中本正廣議長

今年金の話が出ましたけど、今全国の議長会の中でも、厚生年金になるような形はとれないかということ、それから、年金をやるようにしたらどうかというような話も今、出ております。そうでないと、若い人が出れないということなんですよね。私のことを言いますと、私が今30、平成2年から出てますので、その当時、最初出たときにですね、1年間は、ほとんど議会出ておりません。何で出なかったかと言ったら、生活ができないということで、その当時1年間ほどほとんど出てなかったことがあります。それで、やっぱり若い人が出るからにはやっぱり報酬がきちっとしてるもんでないと、出れないというのが今全国的な話がありまして、それにはどれだけの報酬が要るかというのが1番のことだと思うんです。やはり町の中でですね、若い人の意見というのがすごく大事になってきておりますし、そういった方が出ていただくと、活性化にもつながるんじゃないかというふうに思っております。

●住民さん

すみません。ちょっといろいろ地域でいろんな役を持っておったり、それから町の仕事もちょこちょこ、手伝わせてもらったりしておる関係でいろんな人と会って話することもあって、そういう中で、この議会のことに、議員定数、報酬のことについても、一年半ぐらい前ですかね、いろいろな人と話をすることがあって、自分だけが同じことを思うとんじゃないなというのは思うんですが、はっきり言うて、この中のお一方には電話をかけて2回ほど、通信的なものを出しておられたんで、問合せをしたことがあるんですけども、基本的にこれは私の考えですが、議員報酬を上げるのはいいと思います。そりゃあ自分に例えば置き換えたときに、月20万で、賞与が期末手当が3.05月出ても、そりゃ今言われたように、なり手いうのはやってみようというのではないです。決してボランティアでやっちゃいけんと思います。議員は。もう責任を持って、公的な立場でいろんな行動せないけんということですから、非常に重みを持つとるんで、ただ、ただですね、これはほかの人に、議員、今の給与をですね上げるっていうことをどうかっていうふうに聞いたら、そりゃあ、ほとんどの人が、これじゃあ上げることはできんだろう

と、それは反対よというのが大半です。大半いうより、ほぼ全員です。10人から20人ぐらいまでの間の意見ではありますけど。ていうのは何でかって言ったら定数との減らして上げてというのが1番明確だとは思いますが、そうではちょっとやっぱりないと。だからそりゃあ、1番最初の講師の方も話をされとったんだろうと思うんですが、わけて考えないといけない。確かに何か県じゃ国じゃ、陳情するとかいうことになったときにですね、やっぱりそりゃあ、人数がきちっとおったほうがですね、やっぱそれは違うということも、大きな意味を持つというふうに思いますんで、定数のほうはだから増やすというのはもうちょっとそれは言語道断的な、意見だと思えますけどもちょっと多いなというのは、私の個人的な思いでは思います。だけど減らしゃええいう問題ではないんで、ただですね、全員共通して言われるのが、その報酬を上げてええ、けれど議会議員さんの活動の中身が全く見えんと。何をしよってんかと。だから何でこういう質問をするんかそれがどういうふうな関連があるんかと、今までどうだったんかという、やっぱりそれが見えない、聞こえないというのが1番です。だから、やっぱしっかりですね、ボランティアじゃないんじゃけ、本気でやってもらいたいと。その中でやっぱりどういうことを、どういう思いを持って、これが町民のためにどうなるんかということが、分からんけえ、動いてはおられるとは思いますが、結局顔を見るのは、公的な行事のときだけしか顔見んよというような意見が大半でございます。ですから、やっぱり議会議員として議会として議員として何をどがぁにしておられるんかということが見えんというのが、上げる上げんということの1番のネックになつとるというふうに思います。だからそこらのところをどういうふうに受けがええってちょっと言葉は語弊があると思いますが、住民にどういう、住民が何を思うとるんかと、それが議会の活動の中でどう反映されとるんかっていうのが見えんわけです。それが1番の問題ではないかというふうに思います。だから、基本的に、確かに、生活、これですわボランティアじゃなくて、専念したときにですね、本当にこれじゃやっていけんっていうのは目に見えとるわけで、だからやっぱりそりゃあちょっと考えていかにやいけんというふうに思います。だから、ちょうどこのさっき言われたけど美郷町ですね、島根県のこの前の中国新聞でとったのは、3割上げるといことで、提案されとったようですけどもそこ大体人口規模がそこは4,000人規模なんで、似たようなところで議員定数も12人でっていうのはあるんですが、やっぱり理解を求めるといことについては、ただ生活できんけえとかそういうことだけじゃなくてそれは確かにそうなんだけど、じゃあ上げたらほいじゃ、目に見えるような形でさっきも言いました繰り返しになりますが、議員さんの動きがですね、ようなるんかというところに絞られるんじゃないかというふうに思います。以上です。

○小島俊二委員長

はいありがとうございました。まだ時間がありますんでせっかくでございます。ここでちょっと各議員がどんな活動してるかいうのを広報の配布なんか含めて、簡単にちょっと御意見をよろしく、各議員の皆さん。角田議員のほうからよろしいですか。

○角田伸一議員

座ったまま、筒賀の上筒賀に住んでおる角田でございます。議員どういう活動されとるかということですが、本会議に出るのは当然のことです。本会議の前には議案の送付等がありますから、それが来た時点からですね5日ぐらいはそれを見たりということがあるかと思えます。それと人にもよりますが一般質問を行うときに一般質問の材料を探したり、そしてその内容とかですね、これはかなり時間がかかる部分かと思えます。議会が終わるとですね、広報が発行されますが一般質問した人は、その原稿等もですね、またきちっとそろえて出すということが通常の議会のときの活動かと思えます。そして平素はですね、やはり自分の得意な分野とそうでない分野がありますから、私の場合は、林業とか農業とかいうことがですね、ずっと仕事でやってきたことですから、どうしても目につくのは山のこ

とであったり、農地のことであったりということで、そのあたりはですね、平素から気にかけてるようにしておりますし、また住民のほうから、声掛けがあったり要望があったり、問合せがあった時にですね、そこに出向いて話をしたり、行政につなぐことがあればですね、それは行政につなぐというような活動をしているところでございます。以上でございます。

○佐々木道則議員

はい、殿賀住んでおります佐々木道則でございます。私は一応議会のほうで、議会選出の監査委員ということをお任せついておりますので、月のうちに何日かは監査の仕事が必ず入ってきます。それをもって町のほうの、私のあれにも書いとるんですが、一応、行財政改革ということをお主眼に私は動いております。ですので、皆さんのいわゆる町民の方からのお声掛けもありますし、こちらから出向いて皆様の声を町のほうへ届けるといような仕事もやっておりますが主としては一応議会のほうのごめんなさい、監査のほうの仕事をちょっと今現在は主力でやっております。以上でございます。

○田島清議員

同じく殿賀の田島です。私は今お二方言われたような内容のことであるんですけども、それとあわせて、講演会だよりということで、議会だよりをですね発行しております。1,000部強の議会だよりを手配りしておりますが、これは大体配るのに、4日から5日、毎月かかっておりました。で、昨年度から少し体調崩しまして、毎月ではなく、年4回の定例会のときの報告を行っております。それについては手配りで1,200ばかり、配らせていただいております。その原稿を便りをつくる手間とですねそれから配るので、約半月ぐらいかかるのかなというふうに、計算をしております。以上です。

○末田健治議員

はい、津浪の末田です。私はプロフィール1ページ目にありますように住民主体のまちづくりを進めるために、そして私たちの安芸太田町が本当に誇りを持って住めるまちづくりになるように、そういう観点で私は活動しておりますし、一般質問もその観点の中で一般質問をしております。そして、質問した内容については議会報告という形で、定例会ごとの報告を年4回、1,200部、私は作って発行しており、大体配り終えるのがですね3週間からちょっといろいろ忙しかつたりすれば1か月かかります。はい以上です。

○小島俊二委員長

はい小島でございます。本会議は別にして、要は自分の活動としましては先ほど申しましたように、講演会だよりというの400から500配っておりますが、これは全町的にはなかなか配れないという状況でございます。自分の活動とは別にやはり議会として広報委員会とか入っておりますが広報委員会で地域に出て皆さんの話を聞くとか、そういった地域に出る活動を増やしていかないとなかなか皆さんに議会議員活動がわかってもらえないというふうに思っておりますので、今後出て行く場、住民の皆さんの意見を聞く場というのを広報委員会とか各種委員会のほうで進めてまいりたいと個人的には考えておるところでございます。中本議長は広島県議長会の会長とか全国議長会役員しておりますので相当議会活動に時間は費やしてるという状況でございます。かわりに説明しております。

○佐々木美知夫副議長

はい筒賀の佐々木です。先ほど来皆さんが述べられていますように、先ほど小島議員からもお話ございましたように、現在議長のほう、随分多忙でございます。その代理出席もあつたり、私個人の通信を戸河内板ヶ谷から修道の昌原まで、全戸ではございませんが、一応配付をさせていただいて、その場で、例えば、住民の方の顔を見るなり、お話をよくよくさせていただいて、それを参考に、役場とか、いろんなところに出向いて、そういう話を主に聞くことを本分としております。以上です。

○津田宏議員

はい商工会のお世話をしよる中で、私も議会のほうに出させていただきました。私も親の後継いで、田舎で商売を始めておったわけですが、中小企業基本法というのがあって300億の工事やるところも、家内工業のところも同じ法律だったということで小規模事業者が特に多いこの中山間地域の活性化ということですね、平成26年に小規模事業振興基本法というのを我々の同僚の国会議員とともにですね、作っていただきまして、いろんな給付とか持続化資金であるとか、事業再構築とかいう形でやっております。その中で、かなり東京2往復、年間30回以上行っとるわけですが、かなりお金もかかりますんで、何とか会社の経営のほうから、そういう交通費とか捻出していっとるわけでごさいます、これもですね議員として、やるべきことは何かと、これは銭金じゃないなと思いつつやるとるんですが、それで今回はそういう人たちが我々がちょっと今話聞くのに頼りない議員だというふうに聞こえてくるんですよ。やっておられる議員もたくさんおられるんですが、給料を上げるとですねもっと有能な議員さん、政治家が立候補されるんじゃないかと期待しておられると思います。そうは言っても、財源のほうで高い給料も出せませんしね。そういうところを議論していつて将来のやはりこの地域が政治力を持って活性化していくように、私も調べてみましたら、小規模の人はほとんど税金を納めておられませんし、非課税世帯が4割という町でごさいます、一般会計85億のうちの税収は8億3,000万しかない。4億5,000万が中電あたりの固定資産税。稼げる町じゃないんですね。ということは、やはり、中央政府に行つてですね、いろんな高齢者の対策費というのを、日参して持つて帰ると。これ、町長とか役場の職員だけでは難しい面があつて、中本議員もそうですがしょっちゅう東京へ、国交省あるいは財務省行つて、要望しながらも、今回の地域通貨電子マネーですね、そういうのもですね、財務省の認可をとりながらやっておるようなどところでごさいます。これ皆さん方に一々報告をするべきなんです、なかなかばたばたして、自分が広報も会報も出してないような状況で、近々個人報告会というのをやつて皆さん方にお知らせしたいなと考えております。以上でございます。

○大江厚子議員

大江です。私は、住民主体の地域づくり、施策の推進ということを中心に思つていますので、施政に沿つたあらゆる活動を行つていこうというふうに思つています。一つは一般質問は、地域から出ている声とか、私の町内会で月に1回ぐらい話合ひを持つている議会活動とは別に持つているんですが、そこから出た問題等を一般化して、一般質問に出していこうというふうには思つています。それから個人活動としては、議会だよりを皆さん言われてますけど、定例会の後作つて、私は主に戸河内地域ですが、戸河内地域にポスティングしています。それからあと個人的にこの人にはぜひ読んでもらいたいという方には郵送しています。そのほか、私ここにも書いてますが、戦争反対核兵器反対というのは私の人生の大きな仕事だと任務、大げさに言えばね任務だと思つていますので、そういう意味では、広島市で集会があつたりということには出ていますし、それがまた大きくこの安芸太田町にとって、私が議員としておる意味にもつながつていくかなというふうに思つています。そして安芸太田町は黒い雨の降雨域に入つてるんですが、まだまだ申請しておられない人がおられますので、そういうお手伝いもして、単にお手伝いだけじゃなくて、それを、今裁判も行われていますがそういう支援も行つて、本当に原爆がひどかつたということをおさんと一緒に考えていきたい、そういう活動もやつていきたいと思つています。以上です。

○斉藤マユミ議員

はい失礼いたします。斉藤です。私は、憧れるふるさとを目指すということをやテーマに大きく掲げております。観光で町おこしということで、三段峽、恐羅漢、深入山一帯の啓発ということで、そちらのほうへ何度も足を運びまして、いろんな状況を見させていただいたり、お客

さんの声をお聞きして、町のほうへ声を届けているようなことです。そして女性の参画ということで、女性の議員さんがいらっしやらなかったのもやはり女性の声を届けたいということで第一声で私はならしていただいたわけですが、それをずっと念願かなって今では、3人の女性が活動させていただいておりますけれども、もっともっとですね、女性とそれから若い人たちにね、出ていただきたいなという思いでそういうことも、いろんなところを回らして皆さんには訴えております。そしてもう一つ、1番私が地域を回って、自信を持って活動しているのは、高齢者の方のお話を聞かせていただいて、高齢者の困ってらっしゃることをお聞きしてそれを、どういうふうに町のほうへつなげていけばいいかということも、やらせていただいております。特に、女性の方、高齢者のお年寄りの方というのは、女性だから話しやすいということで、よくいろんなお話をさせていただきます。そういったところに力を入れております。もう少し、来年3月までありますけれども、若い女性、若い人たちが出れるように、しっかりこれからも活動していきたいと思っております。

○大江昭典議員

はい、大江昭典でございます。当選から2か月間、日々勉強のような状態でございます。議会として議員としましては、政策、施策の推進、行政の監視等と考えておりますが、私は住民と行政の中間、橋渡しの役割が1番重要ではないかと考えております。日々出会う住民の方からの声、様々な疑問についての電話もちょうくちよく頂いております。その都度役場のほうへ問合せたり、いろんな機関へ問合せお返ししとるような感じです。議会だよりについては、これも声を頂きまして、自分の意見、または、専門用語についてですね、かみ砕いたものを配ってほしいということで、今いろいろ考えながら制作中であります。以上です。

○影井伊久美議員

はい、失礼します。影井伊久美でございます。自身の個人の活動としましては、日々の活動の様子などをSNSなどを通して発信させていただいております。また、意見交換会、個人で開く意見交換会などから頂いたお声を行政へとつないだり、これまでの一般質問において、皆さんとの会話の中から出てきた物をテーマとして、一般質問を行っております。住民の皆様からお話が出たテーマであっても、政策論争をしていく上で、知識や意識をアップデートしていくことは大変重要でございます。7月でいうと、月の半分以上は研修や勉強会などに充てております。県内県外へと、勉強、研修に出向くとともに、皆様のお声は、電話を頂いたり、メールを頂いたり、私も生活者の1人ですので、買物に行ったときに、井戸端会議になったりとかという中からお声は拾わせていただいております。議員紹介の1番最後に書いてあるんですが、議会の見える化が非常に重要だと私も感じております。個人として、議員の資質は大変重要ですが、議会としてどうやって見える化を図っていくか、広聴広報委員会の中でも取り組んでおるところでございます。以上でございます。

○小島俊二委員長

はいありがとうございます。簡単に、各活動について話をしましたが、やはり地元の自分の出身地域での活動が中心になってきたり、講演会だよりでもそこでしか配ってないとかいうようなことがありますので、こういった懇談会の議事録とか資料とかまたホームページで公開をさせてもらいたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。皆さんの賛同が得られるならまた講演会だよりも議会のほうでまたためておいて、皆さんが見れるようにするとか、というような工夫もできたらと思ひます。よろしくお願ひしたいと思ひます。議長さん何かございますか。

○中本正廣議長

私の活動報告もちょっとしとかないかんかなと思ひます。今ちょっと手帳めくってましたら、4、5、6、7、4か月ですけどその中で公務で動いているのが63日ぐらいですか。昨日も帰ったん

ですけど、東京要望とかそういったものも含めまして、中国治水、太田川の関係、それから、西部山系、砂防事業とか、ここにあります西、ごめんなさい、今度新しくできるダムの関係とかそういった分も含めましてですねいろんな要望活動、昨日は、一昨日から、衆議院参議院それから国交省、ようなところを随分こう回ってきました。御存じのように、もう暑い中ですので、大体東京行ったら1万歩以上は歩いております。そのぐらいのことをしょっちゅうやってるような状態でございます。あとは県のほうにもいろいろとお願いに行くこともあって、どうしても、安芸太田町全体の事業をやるのには、国県の予算的なもの、それから補助金も必要でございますので、そういった活動的なものがほとんど多くなっております。そういったことを、大体重点的にやり、またいろんな情報を得た中ではですね、今回も、議会で研修をしようと思っておりますけどこれは総務省の関係、過疎地域に対する補助金関係のことでちょっと勉強会をつくりたいというように思っておりますけど、そういった情報を得た中で、いろんなことをやっていきたいというふうに思っております。私も先ほど話がありましたように、広島県の一応議長会の会長させていただいております、中国地区五県の会長、それから全国の理事、全国の会長副会長の次の要職ような形のものに今なっております。そういった意味で、東京に行くことも多いわけですけど、その割には、情報的にもかなり多く取り入れてきているというように思っております。そういったことを、町のためにいろいろと活動的にも、出していきたいというふうに思っております。以上です。

○小島俊二委員長

はいありがとうございました。ほかに御意見ございましたら、はいどうぞ。

●住民さん

今いろいろ私聞いて、皆さんがいろんな業務に携われて、その地域のためにいろいろやられてるということは非常に分かるんですが、我々一町民からしてみても思うことは、議員定数であるとか、議員さんの給料であるとか、いうことは正直あんまり念頭にないんですよね。それよりは、1番我々が感じるのは町民の我々が具体的にいろんな要望を出したときに、もうそのまず返事が来ない。それから、最近いろんな、このエリアのことも含めて、要望を町に出してるんですけども、まず役場行った段階でもう顔を見られた段階で嫌な顔をされるんですよね。またなんか言いに来たって。ただ私は全然無理難題は一切言っていないし、まして費用かかるようなことも申し上げてません。そういうふうな対応をされるのが1番不本意で何度か議会を閲覧させてもらいましたけど、1番私ちょっと今の役場の、特に課長さんの態度、仕事ぶりに非常に不満を感じます。私も何十年もサラリーマンやってきましたから分かりますけど、もうちょっと我々が言うことをですね耳傾けていただいて、本心から知恵を絞ってもらい、アイデアを出してもらい、駄目な理由も明確にされてこない。これが1番ちょっと非常にこの今の町の現状をよくうたってるなと思いました。一つ二つ例を挙げますと、すぐ目の前に昭和の時代に観光協会で作られた大きな看板がありますよね。昭和の地図です、あれは。加計駅の載った。これは我々このエリアでグループ活動をやってますんで、観光のためにですね、もう依頼をしてからかれこれ3年間、全く返事がありません。そのために費用は我々が捻出して、このエリアの方々の寄附でもってやりますということは伝えてあるんで、町にお金の負担を依頼したこともありません。いろいろな権利関係がどうのこうのとおっしゃったんですけど、観光協会の、ただそんな問題を我々にしてみればもうどうでもいいことで、もう既になくなった協会のことまで我々に言われても全く分かりません。要はねそれをここにこられる方々が、今我々のグループで集計した人数がレジ集計です。ここにある4店舗だけで昨年度12万人の来町者があります。今年はもっと増えてます。これレジ集計ですからそれ以上の方が来られてます。要は、ある意味町の恥の状況をね、ずっとそのほかの市外から来られる方々に見せるのは非常に忍びないんですよ。だから、そんな簡単なことがなぜできないのかってのが非常に不満です。それから、最近でい

えばクーリングシェルター、新聞で最近すごい騒がれてますよね。1番私疑問に思ったのは町のホームページに堂々と出てます4か所。このエリアでいえば川森文化センター。載ってるからと思って、この前見に行ったらまず表示しないんですよ。入ってみれば真っ暗け。もし川森のエリアに、特別警報が出たときだけの話ですけども、やっぱりそこまで誰が行くかというふうに単純に想像すれば、特にここのエリアのこの町のこの通りの場合は、今あそこの温度計つけてますけど、一般的に35度の段階でここは40度になります。このまえもテレビ局がそれ撮影してましたけど。より具体的に町のためそれからここへ訪れていただくお客さんのために、簡単にできることをどうしてできないのかっていうのは非常に疑問なんです。そのときの管轄は住民課と危機管理課らしいんですけども、返事が最終的に断ってきた返事が、職員を配置しなきゃいけないからっていうんですよ。もし特別警報が出た段階で、川森のあの場所に果たしてどれだけ行くかって考えただけでわかりますよね。やっぱりここで何度も私去年も具合悪かった方見かけて、病院をお世話したこともあります。非常にちょっと危険な場所です。まして、県下で一番暑いとこですからね。だから、1番お願いしたいのは、議会の方々がいろんな活動されてるのもよく分かるんですけど、皆さんが配布される、便りに関しても、一生懸命読んでます。ただ、さっきの話をしてこのエリアだけについてまわってくるもんですから、ほかの町内でどういうふうな流れがあるか全く分かりません。可能なら広報紙って活動、広報紙は毎月くるわけですから、その中にもし要約してもらえれば、当然、三段峡のあたりだろうが筒賀だろうが、我々も多少そういう知識持てるかなというふうに思います。これが1番残念なのは、私ここへUターンして、ちょうど10年になります。1番残念に思ってるのは、20年合併してたってるのに、安芸太田町の地名が、すぐそばの広島市安佐北だろうが佐伯区だろうが、それが皆さんが知らないってことなんです。これはいまだに本当にびっくりします。家どこですか、安芸太田町、安芸太田町ってどこですか。安芸高田市になるんですよ。これはあくまで単純に20年間もそういう状況が続いてるっていうのは、どうもやっぱり町としてのいろんな意味での発信が不足してるってか、そういうふうにしかならないです。まして市内からだ益田方面からもそうですけど、ここに来るための交通標識は加計になってます。だから、当然ここへ来る、ここへたくさん行列つくなって並んでる人たちにもいろんな話聞きましたけど、安芸太田に来てるんじゃないんです。加計に来てる。20年もたつてこんな状況っていうのがねちょっと非常に不可解な気持ちがあります。1番申し上げたいのは我々町民がささいなことも、町民がやっぱり動かないと町はもう絶対私動かないと思います。我々町民が一生懸命やろうとしていることに関して、むしろその邪魔をされてるという気になるんですよ。だから、そういうことをね、もう一度ちょっと、役場の職員の方々と、議会の中でじっくりちょっと話し合ってみていただいて、ちょっと誠意を持った返答を言っていただきたいというふうに思います。あまりにもちょっと、各役場の担当者の返答は無責任過ぎます。以上です。

○小島俊二委員長

はいありがとうございました。嫌な顔をされるちょっと誤解だろうと思いますんで、よろしくお願ひしたいと思います。それと中であつたクーリングシェルターとかいうのもちょっと私も話聞いておりますんで、私のほうから役場のほうに電話しました。それでまた、河野さんのほうまでお返しできてない部分がありますんで私の責任だろうと思います。看板につきまして一応町長と話をして栗栖君らと話して、グループの方へある程度任せるよという返事頂いておりますのでまた後ほど協議させてもらいたいと思いますんでよろしくお願ひします。それではほかにございましたら。はいどうぞ。

●住民さん

今日のテーマは報酬と議員のですね、報酬と定数が議題のように思います。それで、いろいろ話がありましたけど、ちょっと、ちょっと話がずれるかも分かりませんが、昨年7月、6月

末の人口が5,624人です。今年が5,434人、年間190人減ってるんですね。あと三、四年したら5,000人を割るんじゃないかという状況です。これは定住促進をやってますけど、いろいろあってもなかなかそれ追いつかないのが現状だと思います。これは皆さんでみんなで話し合っていかなきゃいかんのですが、人口が減るということにつきましては、非常にですね対応できにくいと思いますけど、それと今報酬と議員報酬につきましてはですね、やはり別々に考えるじゃなくて一体としてやらないといけないと思います。報酬もやっぱし上げにやいけません。それで、定数もですね、ここにありますが、小さな町、世羅町、神石高原町は10名ですね。広島安芸太田町5,000人余りで、12人ということは、やはりですね、そこらも踏まえて協議されて減して、それから報酬につきましてはですね、北広島は22万1,000円、やっぱし上げる、両方協議して進めていかにやいけん思います。それで今からですね若い者がなりにくいなりにくい言うても、これはちょっと突拍子な話かも分かりません。議員さんは、今、議員報酬は頂いておられます。しかしながら、もう年がいつておられますので、年金はもらっておりますよね。議員報酬足らずぐらいはもらっておられるかもわかりません。合わせてやれば結構あるんです。若い者いうものはないんですね。そこらで、ちょっとおかしい言い方が分かりませんが、若い方の分については、何かの手当てをして、議会でもやってやる方法も、議員若い人が出るんじゃないかなるか。それから、ちょっと、突拍子なことを言いますが、議員の定年制とかいうのも、やればですね若い人も出やすいというようなこともありますんで、そこらを踏まえてですね、協議していただければと思います。終わります。

○小島俊二委員長

はいありがとうございます。議員報酬と定数については、この前の講演会では別の議論だよということがありましたが住民の皆さんの間にやっぱしセットだろうというような御意見であることも、議会もよく理解しておりますんで、そこらを踏まえて議会の中で協議してまいりたいと思います。年金につきましてはですね、過去の勤務形態によりまして年金もらってる議員とそうでない議員とおすることは理解していただきたいと思います。よろしいですか。ほかにございますか。はいどうぞ。

●住民さん

すみません。定数につきましては、私の考えでは据置きかなと。その理由はですね。広島県の町を見ると、明らかに減らさにやいけん表になっていますが、隣の島根県を見ると、19町村のうち9町村は安芸太田よりは、今の人数が、議員1人当たりの人数が、少ないんですね。そういう意味では、投票率なんか見ますと、やっぱし小さい自治体ということがあるかと思いますが、投票率も高めですね。そういうやはり住民とのつながりはそれなりにあるのかなというように思います。それとも一つはですね、今流れを変えんといけんと思ってるのは、女性議員。トップにクォーター制の導入したらどうかというのが、先日、ジェンダーギャップ指数いうんですか。男女間の不均衡を示す指数ということなんですが、それで日本が146か国中、118位と。非常に人権の面では先進国かなと思ってたんですが、日本自体、後進国かなというような感じを受けてまして、そういうようなこともございまして、全国で先導するような方法を、この際とっていったらいかがでしょうかというのが、当面定数据置きにして、女性が立候補しやすい環境にしたらというのが1点と、報酬につきましては、先ほども意見がありましたが、年金が出ない、支給年齢以下の人については、例えば5万円、それ以上につきましては、報酬審議会の答申にもある1万6,000円ですか。というようなことも方法としてありうるんじゃないかなと。そうすると、若い人が出やすい。そして、そういうことも合わせて、安芸太田町全体を活性化していく方法、また、全国を先導していくような、議長会の会長もやっておられたりというようなこともあって、そういう政策がありうるんじゃないかなと思ってる意見です。以上です。

○中本正廣議長

はい、ありがとうございます。今の全国の議長会のほうで出してることを今言いますと、一つは町村議会が取り組む、なり手不足という対策ですね、なり手不足。この財政支援をお願いしたいということと、町村に対しての取組への助言と支援、それから都道府県としての取組への助言と支援、もう一つは、女性の立場を後押しするための情報提供及び支援制度の構築というのを、総務省のほうにお願いしている状態です。こういったことで、成り手不足というのもありますけど先ほど今言われましたように安芸太田町にとっては、選挙のときの投票率もなかなかいいのが出ておりますので、それと、定数割れをしたことが今のところございません。前回も、1減のときも3人の立候補を得ております。そういったことはあるんですが、今の定数減というところで、神石とそれから大崎上島が10人ということになっておりますが、これが今、委員会をつくる時にどうしても難しいんだと言っております。10名ということになりますと、委員会するとき誰か1人欠席すると、その委員会の中には5名、4名というような形になるんですけど、4名の場合のときに1人欠席すると、大事な議案審議というのが2名の方で審議できるか。1人議長ですね。そういったことでは、議会としての役割を果たせないんじゃないかというような話もあります。安芸太田町は今、一般会計大体80億それから特別会計を含めて150億ぐらいありますけど、それを審議するのにですね、余り少数の人数で審議するというのも、いかなものかというふうには思っております。特別会計それから今二つほどありますけど、今ところは6人6人で分けておりますが、これが減してくるとその人数行かなくなると、その審議がなかなか、どういいますか、少数の人数で決めるということが果たしていいものかどうかというのもあります。こういったものを含めましてですね、今一生懸命議会の中でも協議しているような状態でございます。

○小島俊二委員長

参考までに御存じのように議会では、町民アンケートを今実施しております。2,500出しまして約4割の方から今、回答を頂いておること長計のアンケートよりは非常に回答率がいいという状況でございます。概要申しますと議員定数については減すべきだろうというのが大半を占めて、報酬については現状維持と上げるべきだろうというのがとんどの数字でございます。またこれは詳細につきましては、ホームページ等で公開させてもらいたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

○中本正廣議長

今広島県の議長会の中で、今9町の中で話しするのは、議員報酬については、先ほど委員長言いましたように大崎とそれから世羅町が今27万と言うとりますけど、ほかにも全部上げる方向で考えております。北広島町も今、うちはどうするかどうするかというような話も出てるんですけど、北広島町は上げる方向で考えております。今、ほかのところを見られても、合併しない安芸郡ですか、そこは大体高いんですけど、府中が1番高いわけですけど、府中は交付税はゼロでございますので、単独で幾らでもできるというような状態になっております。あとのところをまだ給料的に上げるという方向でやっておりますので、今の状況では、今までの中では27というのが大体のラインが出てきているというのが、ほかの町村も含めてなっております。これは、安芸太田の場合はどうするかってのまだはっきり決まっておりますけど、そういった状況が今続いております。今の広島県の状態です。

○小島俊二委員長

はい以上につきましては先ほど御意見ありましたように、議員がどんな活動してるのかという議員の活動の見える化が1番重要だと思いますので、そこらを今後住民との懇談会とか会議資料等の公表とか、そういうところを十分に図ってまいりたいと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。ほかに若い方どうですか。若い皆さん、御意見ございましたら。栗栖君。

●住民さん

ではちょっと何点か、昨年、報酬審があったかと思うんですけど、その中で委員さんからどういった指摘が出ていたのかっていうのをちょっともう1回整理をして教えてほしいのと、そのときに出てきた答申っていうのを受けてなぜ報酬の改定までつながらなかったのかっていうところそこまでの間の議会の中でどういった話があったのかっていうのをちょっと教えてもらえるとありがたいです。

○小島俊二委員長

はい1点目なんだったかいね。(報酬審でどういった、委員から話があったか。)報酬審はまだ議事録公開してないかいね。(してます。)してますよね。私も読んだんですけどやはり、あれは全国類似町村の平均をとって1万6,000円ということを決定しとったわけなんですけど、やっぱり議会内部では、全国的には地域的にはいろんな差があるであろうというようなことを踏まえて、それと県内の状況も見ることがあるじゃないか。要は報酬審としては、議員の報酬のアップの議論が中心ではなしにやっぱり据置きとか、引下げとかいうような議論も、議事録の中にあったようにございますが、その辺のちょっと議員活動の誤解もあったんじゃないかというふうに思っているところでございます。2点目の答申を採用しなかったということでございますが、先ほどもございましたように答申を受けて議会内部で議論をいたしました。ほいで報酬と定数については別ものであるということもこの前講演会であったんですが、議会としましては、一応報酬だけをアップして議員定数について方針を出さないということは住民の理解がまだ得られないんじゃないかというのが端的な理由で、一応見送らせてもらったということでございます。

○中本正廣議長

報酬審の中で1番あったのは全国平均というのがあるんですね。それを言われたからその全国平均というのは今現在の全国平均、今全国はもう報酬を上げるという形のを全体的に取っておりますので、そこでその全国平均を今の平均を出したんでは、合わないだろうなということでちょっと見直しということにしました。ですので広島県もそのときにも世羅も上げる、大崎も上げる、北広もそういった形で海田もそういったことは上げてくるという各町村がそういった話になっておりましたので、ちょっと待ちましようということにしたわけです。

●住民さん

はい、ありがとうございます。僕もちょっと、議事録自体は読ましてもらっていて、委員さんのほうからも今日ちょっと話があったような、議員さんの活動がよく見えないよねと、その見えない中で報酬の積算を出すのは非常に難しいということがあったので、よくわかんないんで取りあえず平均しましょうねというような格好だったと思うんです。そうすると、議員さんの活動っていうものをしっかり数字で積み上げられるような何かであるとか、個人的に言えばそういう実績から出すというよりかはどういった仕事をしてもらいたいのか議員さんに、どのくらいの仕事をするべきなのかっていうところの基準をむしろ決めてしまって、それに基づいた額を計算しちゃえばいいのかなと。ただそれがたくさん仕事してくれなのか、そんなに仕事をしてくれなくていいから安くやりましようよという話になるのか、そういったことが、もうちょっとこう町民と議会との間で共通認識を図ればいいのかというふうなことは思いました。先ほどちょっと出てたような年齢によって給料が変わるといような形も、制度的に可能なのであれば、検討すればいいのかなということは、話を聞いてて思いました。以上でございます。

○中本正廣議長

私は動いてる形のもの、例えば災害等があった場合ですね、今回恐羅漢のほうが災害があったときも、すぐお願いってすぐ対応してもらおうという形をすぐとってもらいました。これは以前の時ですと、できていなかったのが現実でございました。やはりこのそこまで言っているか

どうか分からないんですけど、やっぱり議会内の中でも県議会の中でもそうですけど会派とかいろんな面がありまして、なかなか今までの中では安芸太田町の仕事の的にはちょっとできてなかった。これは倍になってきたというのが、一昨年ぐらいからです。そういった中で安芸太田町の中身的なことを聞いていただくようになったというのは、いろんな面があるわけなんです。政治的なことといろんなこと。そういったことをいろいろと、議会としては、議員全員がちょっとお願いとかそういったことをしてやっている状態です。今1番身近なこの場で言いますと、間垣いうんですかその、あれも広げてもらうのも全然計画なかったんですけど、すぐやってもらうような形を今やってもらってますけど、拡張してもらうとか、それから今の橋を、今橋を落としてますけど、そういったことも含めましてですね、仕事がスムーズにいくような形のもの、これは県が一応ストップしてたものができるようになったんですけどそれもやはり、議員活動の中で動いてできるようになってきたというような活動的に皆さん方が見えないところで陰でやってる面もいろいろあるとは思いますが、それが皆さん方に見える化になるような形のものをやっぱり今から先していかなければいけないなというふうに思っております。どうしても議員の活動が見えてないというのが1番の皆さん方の不安と、どうなるとんかというようなことで、やっぱり報酬とか、議員定数とか言うたときに1番のやり玉に上がってくるんじゃないかというふうに思っております。そういったことがないように、議会としてもそれが見える化として、皆さん方に正していただいて、よう頑張るとんと言われるような形をつくっていききたいなというふうに思っております。よろしく申し上げます。

○小島俊二委員長

はい、3時ぐらいまでを予定しております。まだ時間ございます。御意見ある方は、はい、どうぞ。

●住民さん

すみません、本町の森脇と言います。今議員の紹介というのを見させていただいて、約まだ3年半年ですか、この中で皆さんこう書いておられるんですが、この中で達成できたもの、いろんなこと書いてあるんですが達成できたもの、達成できなかったこと、恐らくあると思うんですよね。それできれば、お1人ずつ、これはわしはやったと。3年の間にできるもう4年で大方達成するというもんがあれば、また言ってもらって、これ1期じゃ無理よと、もう1期やらせてくれよというのがあればまたそれも聞かせていただきたいと。それが議員の報酬と、これはこういう仕事をされたんだからこのぐらいは出てもいいよなど、これは仕事をしとらんじゃけえ、出さんでもいいんじゃないかという恐らく意見があると思うんですね。そういう中で、お1人ずつ1ページからできれば、私はこれ達成しましたというのがあれば、一言を言っていただければうれしい。それと、最近ちょっと余談になりますけど、トンネル内の事故が非常に多くなってる。戸河内でも死亡事故があった。ここのバイパスのトンネルでも事故があった。安野のトンネルなんかふだん通ったら闇夜ですよ、あそこは。どうにかならんか明るくと。そういうところもやっぱり住民から見たときに、安全で安心な町と言えるだろうかということも、雁首並べてきていただいておるんじゃないけえちょっと考えていただいて、そういうこともはっきり分かればまた町民のほうへ報告していただけると、なおありがたいです。

○中本正廣議長

この前から大きな事故があるわけですけど、戸河内の発坂トンネルについてはですね、照明は一応全体的にはついてるということなんですけど、まだ暗いということで、LED化するのにはあそこ1億ぐらいかかるということなんです。それで9年度にやる予定になっていると。安芸太田町管内のトンネルの中で1番古いのから順番にやっていくということになっているそうです。今安野トンネルもそうですけど暗いということでもありますので、この月曜日ですか、月曜日だったかな私行ってお願いしております、そのことは。それともう一つ、すぐそのトンネ

ルですよ。これが今水がトンネルの中に出ますし、暗いというのがあります。それは今一応、どういいますか、側面をもっときれいにして、水を側道の方に流していくような形をつくるというかそれは早急にやるということでした。もう一つ、戸河内の分です。戸河内のセンターラインが見えにくいというのを、引かえすというか、道路が乾いた状態になったらすぐやるようにしますけどということでしたが、どういいますか、凸凹になって音がするんがありますよね、ラインが分かるような、それと蛍光塗料的なものをとって入れるというような話もしてくれましたんで、そういったことをすぐやるということになっております。ですのでトンネルについては、順次LED化にして照明を明るくするようにしますという返答を受けておりますので、よろしくお願ひします。

○小島俊二委員長

それじゃせっかくの御要望でございますんで1人ずつ、20秒か30秒ぐらいずつでお願いします。

○佐々木美知夫副議長

それでは御要望にお答えしまして、20秒か30秒ということで、これ1ページ、佐々木でございます。これ21年の初当選以来ずっとこう課題にして取り組んできた。ただ、ここに書いてありますけども、これ達成されたもんもありますし、今進行中というのがあります。これ、ただ、議員1人で、どうにもできるもんじゃないです。だからこれをわしがやったという自慢できるようなものはありません。議会でみんなで議論してやってる問題です。皆さんも御存じのように学校の統合問題、いろいろ議論され課題もあったんですが、今2中学3小学校になっております。人口減少による少子化、少子高齢化これはまだ今継続中です。それと公共交通の利便性の向上、これもずっと言うてきたんですが、現在、皆さん御存じのように500円で町内行けるというような、まできてます。それと定住対策の強化、これ私当選してからずっと空き家バンクの制度をずっと推進してきて私もタッチはしてきたんです。なかなか田舎ということで空き家バンクをうまく活用することができず、これまだ課題いろいろあると思います。それと定住促進住宅の促進、これようやく今年度から、加計は飛んだんですよ、戸河内に2か所、筒賀に1か所、建設今年度中に建設ということになっております。その他いろいろあるんですがこのぐらいで30秒ぐらいだと思います。

○小島俊二委員長

あまり、やったこと簡潔でいいですからお願いします。

○末田健治議員

はい。私は先ほど言いましたように、住民主体のまちづくりということが柱でございます。そういう中で、安芸太田町に非常にたくさん、宝はたくさんあるんですが、その中でも、かつての太田川には程遠い現在の状態でございます。それをとにかく復活をするということは、私のどういいますか、活動の柱としております。今朝もですね、ちょうどお客さんがプラットホームにおったらこられて、アユはどうかいという話からですね、わしもアユはやりよったんだけど、今の川じゃ釣りに行く気がせんという話をされておりました。はい。以上です。

○津田宏議員

私の場合も12年になるんですが、たちまち商工業の関係で企業がですね、地域から逃げていく状態がずっと続いたわけですよ。何とか町なんかやったんか言ったら何もやとらんと、メタルワークとか佐々木工業さんとか町外行くのに、土地のあっせんをしても何か地元調整が、こういうことじゃいかんということで企業誘致条例いうのを作っていただきました。それとあと商工業者がだんだん高齢化して減っていく中で頑張るビジネス補助金いうのを全国に先駆けて今から約10年になりますかね、作っていただいて、小売店がかなり減ったんではありますけど人口減とは、ちょっと持ちこたえておるような状況でございます。それから地域のお金は地域でまわそうということで共通商品券を発足しましたが、これはキャッシュレスでmoricaというの

をこしらえて、これは好評でして、今回も給付金1億7,000万ですね、1家庭に3万円と7万円、1,200世帯。それも町内だけで使えるようなポイント制にしてやったのがこれ大当たりで、各地域の小売店が1割、3%人口が減つとるにもかかわらず1割伸びているということで、これがいい結果が出たんじゃないかと思います。そのほかですね。加計高校、これも12年間、お世話する中で、町内に子どもがいないということで町外あるいは県外から募集するようお願いしたところですね、加計高校の先生方の努力また地域の皆さん方の協力です、去年も1.6倍、今年ですね、去年も2.12倍、県内では2年連続トップというような形で、町内の中学生も今まで市内でとったんがこんなに競争率がいいんならということですね、12人って言いよったのが18人去年入っていただきました。これで寮が満杯になるところ何とか免れたようなこととございます。いろいろ多々、今からやらないけんことがいっぱいあるんですが、皆さん方と相談しながら聞きながら、活動していきたいと思いますのでよろしくお願ひします。以上です。

○田島清議員

はい次田島です。私はまず、命と暮らしということで命の部分で、ここにも書いております1,000年に1度の洪水を国が発表しました。その中で、このかけはしも浸かるというふうな中身でした。まずJRの鉄橋、撤去すべきだということ、初当選の当初から掲げて実際に橋桁が抜けられるというふうな状況ができました。あともう一つ、今、津田議員のほうも言われたように、子どもに誇れるバッチということも掲げておりましたけども、加計高校が県内でもトップの人気ということで、そういうふうなことがあります。あと、女性に支持される町という先ほどからありましたような、クォーター制とかいうことで、1人増というのはけしからんということも言われましたがその1人が私でございますが女性が出やすい状況っていうのはやっぱり定数が減ると、出にくくなるというのは当然だと思います。そういった目標を今持っておるところでございます。以上です。

○佐々木道則議員

はい、佐々木でございます。私は現在2期目でございますが、そこに書いてありますように3点挙げております。これ簡単にですが、協働のまちづくりということで生活環境支援、ということで今日も私地域の方と一緒に草を刈って午前中ちょっと草を刈ったんですが、そういうあれができなくなる地域も出てきてます。というようなことで、ここについてはまだ100%達成をしておりますがこれは町のほうにも話をしてですね、できるだけその支援の内容にもよるんでしょうがそれを充実させていただきたい。未来につなぐということで道路の整備に、これはまだ道半ばでございます。行財政改革の推進ということでこれ、健全な行政運営と効率的な行政運営、これは私だけの力ではないんですが、町の執行部、議員の皆さんにもよるんですが、4年ぐらい前までは、いわゆる調整財政基金、皆様で言やあ、一般の貯金ですね、貯蓄が20億ぐらいまで下がりました。それをここ昨年これ令和5年の話ですが、決算では30億ぐらいまで戻ってきてます。これは町執行部の方の、いわゆる、議員の皆様、意見等もありますし、いわゆる、収入の範囲内での行政を推進していくということをもた引き続き取り組んでいきたいと思ひます。以上です。

○角田伸一議員

はい、角田でございます。私ここに書いております中の丸がついとる中の自然保護、里山の整備、道路周辺の森林整備、ちょっとこれに絡んだようなことなんでございますが、具体的に言いますと、安芸太田中学校の駐車場があるわけなんです、そこに樹木が覆いかぶさって、非常に危険な状態であるということで、関係者のほうから、所有者のほうちょっと調べてもらって同意をとってほしいというようなことがありましたんで、それならそういう事業であれば、ここという森林環境譲与税とか広島の森づくり事業とか、そういうような事業で対応できるんじゃないかということでですね産業課のほうとも話をしまして、よかつたら私が同意をとりま

すと、同意をとってですね、結局のところ、産業課のほうで、ここですね、処理は全部やってくれたということです。現実には、所有者のほうには負担がかからない形で、駐車場に覆いかぶさっていた樹木は全部取っ払ったということでございます。経費が幾らかかったかということですね、確認をしておりますがそういうような活動しております。以上です。

○大江厚子議員

はい、大江です。一人一人の議員の力というのは本当に小さくて、1議員が言ったからといって、行政が町行政が大きく変わるとか前進するということではなくて、住民の人たちの声とそれから議員、議会の力で、大きく変えていくことができるというふうに思っています。私は、国政、地方の自治体の施策というのは絶対国政に影響されるんですね。国政というのは時の政府によって影響されていますので、私がここで提言していることがなかなか実現するというのは難しいことでした。です。一つは環境、自然環境保全のということでは、風力発電に、ほかの議員と一緒に、反対してきましたし、それをその関連で、環境保全条例をね作ってはどうかとかそういう提言はしてきました。なかなか難しいというのが正直なところです。

○斉藤マユミ議員

はい、失礼いたします。私は大きなことはなかなかできませんでしたがけれども、住民の皆さんの声を町のほうへ届けまして、達成できることが幾らかありまして、私自身としても、達成感を持っております。特にですね私女性の視点で声を届けたいということで最初が、私は女性参画ということで出ささせていただきましたので、一生懸命最初の頃はやっぱり、余りできませんでしたけど後ろ姿を見ていただければという思いで活動してまいりました。現在はこうして3名の者が、女性が行政のほうへ女性の視点で声を届けさせていただいておりますし、これからも、やはり女性もしっかり活動していただくことによって町も、活気づいてくると思いますので、しっかりとですね、女性に出ていただけるような、訴えを、いろんなところに出向いてさせていただきたいなと思います。そしてなかなか難しいんですけども報酬のことも考えますと難しいんですけども、若い人にもねどんどん青年たちにですね、政治に関心を持っていただいて、出ていただけるように頑張っていかなければと思っております。

○大江昭典議員

はい、大江でございます。ここには具体的には書いてないんですが、先般の選挙中でも、住民の皆様からいろんな声を頂いております。それを、聞きながら、今様々な問題がありますけど、これについてどう取り組むかというのをこれからはっきりしていこうと考えております。よろしくお願ひします。

○影井伊久美議員

はい。私は1期3年半になります。日々いろいろなお声を頂いて、住民の皆さんからお声を頂いたものを直接行政へとつながらせていただいて、形になったりあるいは見直しを図っていただいたり、そういったこともございました。一般質問から制度化していただいたのは、乳幼児等医療機関等交通費助成制度というものを制定していただき、小児科がないこの町でも、町外に出て医療を受ける際に、交通費がネックとなることを助成していただく制度を設けていただきました。あとは議会の見える化のところ、意見交換会の開催や、議会報告会の開催など、こちらのほうにも力を入れて取り組んでまいりました。以上でございます。

○小島俊二委員長

はいすいません。私のほうは議会改革特別委員会の委員長としまして、これは議員全議員の皆さんの御協力があったんですが、一般質問の一问一答方式の採用でありますとか、議会中継の実施、それから議決事項の各議員の反応状況等々、議会改革のほうで進めております。議会だけではなかなか決定できませんので、また議員の皆さんの御協力が必要であろうというふうに思っておるところです。それで1点。未達成が保育料給食費の無料化を非常に訴えておる

んですが、なかなかうんということができませんのでそれは未達成でございます。以上でございます。

○中本正廣議長

私が大体、これをしたらいいというのは言いますと、大体10年かかっております。1番最初は小型合併浄化槽の抜取りとか点検のがようやくできました。それから、災害時に困ってるドローンやることもようやくできるようになりました。もう一つは防犯カメラ、各地域にこの防犯カメラ必ずやってほしいというのがこれも言い出して10年かかりました。ようやく、今、安野、津浪それからその吉本のところ、それから、インターのところですか戸河内インターのところ、今今度、湯来に抜けるところにあるような話になっておりますけど、そういったことができればですね、防犯がならないというようになりますけど、大体言い出して10年が来てるのが今の現状でございます。10年前にできたら加計スマートインターができたというのも、よかったなというふうに思っております。もう一つは、今丁川と香草の間の今拡張工事もお願ひして、これはすぐやっていただけたんですが、次の今目標にしてるのは、殿賀から木坂に抜けるトンネル、赤羽がちょっとなかなか、死亡事故もあつたりとか今までの中でありましたんで、そこを今お願ひしてるような状態ですので、これはまだもう少し先になると思ひますけど、そういったことを、今、大きな部分はお願ひしてる状態です。あと私が1番こう思ってるのは地域特産品を作りたいというような思いで一生懸命やってるところです。今祇園坊の干し柿が今津浪でやっておりますけど、これも今現在は、広島市内では一個が大体600円以上で売っておりますし、銀座の千屋屋で一応見ていただいたら、うちでは1,000円で売ると言ってくれました。それくらいの品物が今できて自信を持っておりますのでまた次も新しいものを何とか考えたいというふうに、地域で特産と申しますか、宝物がいっぱいあると思ひますので、そういったことを、今から先もちょっとやっていきたいというふうに思っております。皆さん方にいい知恵がありましたらまた教えていただきたいというふうに思っております。よろしくお願ひします。以上です。

○小島俊二委員長

はいありがとうございます。ちょっと長くなってしまったんですが、うちの議会のほうは環境省みたいに途中で打切りはしませんので、最後どなたかお1人でもございましたらよろしくお願ひします。はいどうぞ。

●住民さん

戸河内会場でも出席させていただきましたまして発言したんですが、先ほどの質問の中でも出ておりましたが、今安芸太田町は年間に140人ぐらいが自然減、お亡くなりになっておりますし、そして有権者が4,900ちょっとおられますが、そのうちの18歳から30歳が322人ぐらいしかおられないと。男性が180女性141、そうすると、今の町の人口構成から見ましたら、いびつな人口構造なんですよ。だから140人ぐらいしか若い人がおられないということは、次の次世代を担う赤ちゃんがなかなか生まれづらいというような状況。それで、30歳から40、31歳から41歳までになりますと、今のうちに、男性が238人、女性が204人、合計で446人、それから、41歳から50歳までで男性が332、女性が274で606人、町に元気がないということになると、今の若い人の322人に今の1,000人ぐらい足せば1,300位ということなんですよ。そこらがやっぱり1番大きな町が元気になることをどのようにして変えていくか、これが1番大きな問題じゃないかと私は思うんですよ。いろいろ自分がやってきたことをいろいろご披露されましたけれども、今1番大きな問題はやっぱり人口の構成をどのようにして、若い人がやっぱり住みやすい、特に女性が住みやすいような町をどのようにしてつくるか、このことじゃないかと私は思ってます。これは議員さん一人じゃできませんし、町民の意識も変えないけませんし執行者側も全くそうだと思います。そこらをねやっぱり考えていただいたら、今の安芸太田町の人口構成4,900それから今のよ

うに、総人口5,400引くと0歳から17歳が500ちょっとしかおらんということですね、9%ちょっとですよ、全体の割合から言ったら。これをどのようにするかということなんで、そうしますと、人口の定員は、私は正直言って10人まで減らす。そして常任委員会は全員でもって構成する。議長は大所高所から物を言うわけですから、それは常任委員会から外れられても結構でございますが、全員でもってとにかくやると。それ先ほど議長が言っておられましたように、委員長副委員長でやると、あとの委員会構成でなかなか意見が集約的に難しいというようなことございましたから、私は全員でもって構成すればよろしいわけだと思っております。そして議員報酬は、広島県で一番人口の多い府中町は5万4,000人くらいの人口で、一般議員が29万ぐらいですかね、そこまでは望めませんが、議員は最低やっぱり25万ぐらいは報酬を引上げてもいいと思います。そういうことを踏まえてですね、特別委員会ですっかり、3会場で出た御意見を集約しながらですね、一つ、議会としてある方向を見いだしていただければと思っております。以上でございます。

○小島俊二委員長

はい、ありがとうございます。議論は尽きないんですがちょっと時間もまいりましたのでまた、9月定例議会の議会報告会とか、地域に出ることを増やしてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。各議員の議員活動についてもまたいろんな工夫をして見える化を図ってまいりたいと思いますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。最後閉会にあたりまして、佐々木副議長のほうから御挨拶を申し上げます。

○佐々木美知夫副議長

はい皆さん、今日は大変暑い中、またお忙しい中を、このようにたくさんお集まり頂きまして、本当にありがとうございます。今日の皆さんから御意見を頂いたことを、今後のこの定数、また報酬等を委員会によく議論をいたしまして、ぼちぼち決めていきたいと思っておりますので、皆さんの御理解と御協力をよろしくお願ひをいたします。ありがとうございます。

○小島俊二委員長

ありがとうございます。以上で懇談会を終了させていただきます。ありがとうございました。